

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書
肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線療法の確立

研究分担者 八岡 利昌 埼玉県立がんセンター 消化器外科副部長

研究要旨

2013年12月31日までに本研究に登録した肛門扁平上皮癌自験例について検討する。また1999年7月から2013年12月までに当センターで治療した肛門扁平上皮癌の治療成績について報告する。

A. 研究目的

当センターにおける本臨床研究の施行状況について報告する。また最近15年間に治療した肛門扁平上皮癌について検討する。

B. 研究方法

本臨床研究に登録した1例について検討する。さらに1999年1月から2013年12月までの原発性大腸癌2950例における肛門扁平上皮癌の治療成績について報告する。

（倫理面への配慮）

ヘルシンキ宣言および「臨床研究に関する倫理指針」に従って研究を実施した。担当医による口頭の説明と同時に、十分なインフォームドコンセントを行い、説明同意書で同意を取得した。

C. 研究結果

当施設から肛門扁平上皮癌1例を第Ⅰ相レベル1として登録した。残念ながらその後、適確基準に該当する症例を経験していない。1例目に関しては化学放射線療法2コース開始後の4日目に化学療法休止規準に該当した（AST：122 IU/L、ALT：153 IU/L）。放射線治療の最終照射日まで化学療法再開規準満たさず2コース内のS-1内服回数が7回となったものの、その後は有害事象を認めていない。2013年12月に施行した腹部・骨盤CTおよびMRI検査においても、病変の再燃は認めず、今後も経過観察を継続する予定である。

当院で外科治療を行った大腸癌2950例中30例が肛門管を主座とする癌腫であり（1.0%）、肛門扁平上皮癌は4例であった（Stage 0 1例、Stage I 1例、Stage III 1例、Stage IV 1例）。Stage 0に対しては肛門的局所切除を施行、Stage I に対し

ては超低位前方切除を施行、いずれも5年以上経過したが、いずれも再発を認めず完治したと推測される。一方、Stage IIIとIVの2例に対しては人工肛門増設後に放射線化学療法を施行したが、それぞれ癌死した。

D. 考察

現在、当センターでも肛門管扁平上皮癌に対して放射線化学療法を取り入れた治療を行っているが、現時点での治療成績は決して満足いくものではない。肛門管癌の60～80%は扁平上皮癌であり、比較的放射線に対し感受性が良好である。手術器械や手術手技の進歩により肛門近傍に発生した分化型腺癌に対する外科治療成績は向上しているため、今後は化学放射線療法を主軸とした集学的治療が期待される。

E. 結論

進行肛門扁平上皮癌の治療成績は不良である。Stage IIおよびIIIの肛門管扁平上皮癌に対する化学放射線療法の長期予後は本邦でまだ解明されておらず、本研究の意義は大きいと考える。今後、化学放射線療法を主軸とした集学的治療の開発が期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

横山 康行, 江原 一尚, 八岡 利昌, ほか: 一期的完全腹腔鏡下手術を行った胃・直腸重複癌の1例. 日本外科系連合学会誌 38 巻 5 号 Page1005-1010(2013.10)

塙 秀暁, 八岡 利昌, 横山 康行, ほか: 根治手術後 17 年目に孤立大腸転移をきたした卵巣癌の 1 例 . 日本大腸肛門病学会雑誌 66 巻 7 号 Page529-533(2013.07)

小倉 俊郎, 坂本 裕彦, 八岡 利昌, ほか: 移動盲腸による腸軸捻転症の 1 例 . 埼玉県医学会雑誌 47 巻 2 号 Page348-352(2013.02)

野津 聡, 西村 洋治, 八岡 利昌: 下記論文の質疑に対する回答 CT コロノグラフィーにおける鎮痙剤の必要性和体位変換の方向 . 日本大腸検査学会雑誌 29 巻 2 号 Page65-67(2013.01)

Ishikawa H, Fukuda T, Oka D, Arima M, Nakamura S, Ogura T, Kikuchi I, Noda K, Yokoyama Y, Hanawa H, Ehara K, Yamada T, Yatsuoka T, Nishimura Y, Amikura K, Kawashima Y, Sakamoto H, Kurosumi M, Tanaka Y. [A case of superficial carcinoma in a diverticulum of the thoracic esophagus]. Gan To Kagaku Ryoho. 2013 Nov;40(12):2100-2. Japanese.

Yatsuoka T, Nishimura Y, Sakamoto H, Tanaka Y, Kurosumi M. [Lymph node metastasis of colorectal cancer with submucosal invasion]. Gan To Kagaku Ryoho. 2013 Nov;40(12):2041-3. Japanese.

Nakamura S, Ehara K, Ishikawa H, Ogura T, Kikuchi I, Noda K, Yokoyama Y, Hanawa H, Oka D, Yamada T, Fukuda T, Yatsuoka T, Amikura K, Nishimura Y, Kawashima Y, Sakamoto H, Tanaka Y. [A case of laparoscopic partial hepatectomy and splenectomy for hepatocellular carcinoma and pancytopenia]. Gan To Kagaku Ryoho. 2013 Nov;40(12):1786-8. Japanese.

Amikura K, Sakamoto H, Ogura T, Yatsuoka T, Nishimura Y, Kawashima Y, Fukuda T, Ehara K, Oka D, Tanaka Y, Yamaguchi K. [Surgical management for more than 10 liver metastases from colorectal cancer]. Gan To Kagaku Ryoho. 2013 Nov;40(12):1656-8. Japanese.

Terui H, Tachikawa T, Kakuta M, Nishimura Y,

Yatsuoka T, Yamaguchi K, Yura K, Akagi K. Molecular and clinical characteristics of MSH6 germline variants detected in colorectal cancer patients. Oncol Rep. 2013 Dec;30(6):2909-16.

Yamagata Y, Kawashima Y, Yatsuoka T, Nishimura Y, Amikura K, Sakamoto H, Tanaka Y, Seto Y. Surgical approach to cervical esophagogastric anastomoses for post-esophagectomy complications. J Gastrointest Surg. 2013 Aug;17(8):1507-11.

Kobayashi H, Kotake K, Funahashi K, Hase K, Hirata K, Iiai T, Kameoka S, Kanemitsu Y, Maeda K, Murata A, Ohue M, Shirouzu K, Takahashi K, Watanabe T, Yano H, Yatsuoka T, Hashiguchi Y, Sugihara K; Study Group for Peritoneal Metastasis from Colorectal Cancer by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Clinical benefit of surgery for stage IV colorectal cancer with synchronous peritoneal metastasis. J Gastroenterol. 2013 Jun 24. [Epub ahead ofprint]

2. 学会発表

八岡 利昌, 横山 康行, 島田 竜, ほか: 高齢者大腸癌外科治療の現況と問題点 . 日本大腸肛門病学会雑誌 66 巻 9 号 Page786(2013.09)

西村 洋治, 横山 康行, 八岡 利昌, ほか: 大腸癌から伸びる静脈腫瘍血栓症例の特徴 . 日本大腸肛門病学会雑誌 66 巻 9 号 Page733(2013.09)

野津 聡, 西村 洋治, 八岡 利昌, ほか: 造影 CT コロノグラフィーによる表面型大腸癌カラー表示の試み . 日本大腸検査学会雑誌 30 巻 1 号 Page15(2013.06)

八岡 利昌, 横山 康行, 西村 洋治, ほか: 外科系各科における最新手術器具とその使いこなし大腸癌手術における合併症低減を目指したエネルギーデバイス使用の工夫 . 日本外科系連合学会誌 38 巻 3 号 Page542(2013.05)

網倉 克己, 坂本 裕彦, 八岡 利昌, ほか: 再発

後経過からみた大腸癌肝転移切除における化学療法の効果．日本外科学会雑誌 114 巻臨増 2 Page824(2013.03)

山田 達也，川島 吉之，八岡 利昌，ほか：
T3(SS)NOMO 胃癌症例の臨床病理学的検討．日本外科学会雑誌 114 巻臨増 2 Page591(2013.03)

八岡 利昌，西村 洋治，石川 英樹，ほか：進行結腸癌に対するリンパ節郭清の定型化と再発予防を講じた腹腔鏡下結腸切除術の工夫．日本外科学会雑誌 114 巻臨増 2 Page511(2013.03)

江原 一尚，野田 和雅，八岡 利昌，ほか：内視鏡手術から見た外科解剖 腹腔鏡下胃切除から見えてきた幽門下動脈の分岐と 6 番リンパ節廓清．日本外科学会雑誌 114 巻臨増 2 Page132(2013.03)

横山 康行，西村 洋治，八岡 利昌，ほか：腹膜播種合併初発大腸癌の臨床病理学的特徴と予後の検討．日本大腸肛門病学会雑誌 66 巻 2 号 Page141(2013.02)

西村 洋治，八岡 利昌，横山 康行，ほか：腹膜播種再発大腸癌の手術成績．日本大腸肛門病学会雑誌 66 巻 2 号 Page127(2013.02)

川島 吉之，山田 達也，八岡 利昌，ほか：噴門部早期胃癌手術としての神経温存噴門側 1/3 胃切除．日本胃癌学会総会記事 85 回 Page296(2013.02)

八岡 利昌，中村 聡，西村 洋治，ほか：癌専門施設における人工肛門手術症例の検討．日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 29 巻 1 号 Page106(2013.02)

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし